

日本鳥学会ポスター賞これまでの受賞者

2019年10月1日更新

2019年度 受賞

《生態・行動》分野

○西田有佑（大阪市立大）・高木昌興（北海道大）

「モズの越冬期の生息地利用が、はやにえ貯蔵量や求愛歌の魅力に与える影響」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○中原多聞・林昭次・奥田ゆう・皆木大生・小平将大・知花宇晃・亀崎直樹（岡山理大）・進藤英朗・久志本鉄平・上原正太郎（下関市立しものせき水族館）・村上翔輝・恩田紀代子（ニフレル）・石川恵・伊東隆臣（海遊館）・毛塚千穂・樋口友香（須磨海浜水族園）・安藤達郎（足寄動物化石博物館）

「骨内部構造から考察するペンギン類の水棲適応」

2019年度 次点

《生態・行動》分野

○植村慎吾・高木昌興（北海道大）

「琉球列島の島間で異なる音響環境に適応したさえずりによる生殖隔離」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○佐藤一海・向井喜果・鎌田泰斗・佐藤雄大・山田新太郎・関島恒夫（新潟大）

「飛行特性を反映させた大型水禽類4種のセンシティブティマップ」

2018 年度 受賞

《生態・行動》分野

○清水拓海(慶應義塾大学)・夏川遼生(横浜国立大)・湯浅拓輝(慶應義塾大学)・一ノ瀬友博(慶應義塾大学)・黒田裕樹(慶應義塾大学)

「トラフズクのペリットに対するメタバーコーディング技術の応用」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○青木大輔(北大院・理)・松井晋(東海大・生物)・永田純子(森林総研)・千田万里子(山階鳥研)・野間野史明(総研大・先端科学)・高木昌興(北大院・理)

「絶滅した自然集団の DNA から生物が新しい集団形成を可能にする条件を探る」

2018 年度 次点

《生態・行動》分野

○榊原貴之(岩手大・院)・野口将之(魚鷹研究チーム)・吉井千晶((株)建設技術研究所)・東淳樹(岩手大・農)

「巢内カメラを用いた内陸ミサゴの餌内容解析 ―外来魚利用の実態―」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○佐藤一海・向井喜果・鎌田泰斗(新潟大・院・自然科学)・森口紗千子(日獣大・獣医)・関島恒夫(新潟大・農)

「風車への衝突リスク低減を目指したオオヒシクイの三次元的センシティブティマップの提案」

2017 年度 受賞

《生態・行動》分野

○西條未来・沓掛展之（総研大・先導研）

「チドリ目における対捕食者行動の決定要因：種間比較による検討」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○向井喜果（新潟大・院・自然科学）・安藤温子（国立環境研究所）・布野隆之（兵庫県立人と自然の博物館）・関島恒夫（新潟大・農）

「DNA バーコーディング法と安定同位体比分析を組み合わせたオオヒシクイの食性解析」

2016 年度 受賞

《生態・行動》分野

○松下浩也, 土岐田昌和(東邦大・理)

「スズメにおける胚の性特異的死亡：生理的・生態的要因の解明」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○松下浩也, 土岐田昌和(東邦大・理)

「鳥類における弁足の進化とその形成機構～バンとオオバンの胚発生の比較から～」